

東京土建一般労働組合
東京都新宿区北新宿1-8-16
電話03 (5332) 3971 (代表)
FAX03 (5332) 3972
ホームページ
http://www.tokyo-doken.or.jp/



定価 五十円
(年間購読料 千八百円)
購読料は組合費のなかに含まれています



印刷部数 106,800部 発行人・編集人 吉川 豊

所得サポートの組合独自の保険
この秋、「所得サポート保険」を対話ツールとして活用します。組合のスケールメリットで社員の福利厚生を拡充して、働く側から選ばれる事業所に。
(関連記事6面)

現状動かす強大な組合に

本部組織部長 檜山 剛志



檜山組織部長

前進を

基礎組織強化 アクション運動 事業所対策の

総対話で

夏が終われば秋が始まる
仲間増やす拡大月間



7月30日の拡大中央執行員会（ビジョンセンター東京京橋）にて。前に並んだ支部の組織部長とともに決意を固め合う

9月、10月で仲間を増やす秋の拡大月間は、全支部が1月組織人員の3・5%以上を目指すもので、「実増」を勝ち取る重要な取り組みとなります。総対話で、仲間のつながりを再強化しましょう。

2023年秋の大運動・拡大月間がスタートしました。あらためて全都の仲間の奮闘に感謝するとともに、月間成功に向けて、より一層のご協力をお願いいたします。さて、今年度の重点課題で

9・13集会 怒りは最高潮！もう黙ってはいられない

私たちの仕事とくらしを取り巻く状況は深刻です。ガソリン代の高騰、異常な円安、材料費高騰が営業を圧迫し、物価高倒産も激増

秋の大運動方針では、この点を基本に、「人を活かす育てる組織づくり」を実感できる運動にすることが大切です。仲間の仕事とくらしの状況は、物価高騰とともに建設資材の高騰が続き、中小企業では価格転嫁が進んでいませ

国が元請に「転嫁」促す 9月は「価格交渉促進」月間

経済産業省・中小企業庁は2021年より、3月と9月を「価格交渉促進月間」として、受注側中小企業からの

価格交渉の申し出に遅滞なく応じることや、価格転嫁に積

極的に対応するように要請がなされています。あわせて、アンケートや下請Gメンによる中小企業2千社へのヒアリングなどで、実際の価格交渉・転嫁状況について国による

客観的、合理的なデータで交渉を

交渉の際は、理由がある価格を示さなくては交渉になりません。発注側は客観性のあるデータや合理的な根拠に基づき価格かどうかを見てください。見積もりのうち「何がいくらで」「何が値上がりしたか」など内訳詳細と価格の推移表などを示し、最賃の引上

訂正とお詫び

第2433号(2023年8月1日発行) 2面の都連大会の記事と4面の主税局交渉の記事で、現東京都連委員長(前東京都連税金対策部長)の山本さんのお名前に誤りがありました。正しくは「山本享さん」でした。お詫びして訂正いたします。

経済産業省・中小企業庁は2021年より、3月と9月を「価格交渉促進月間」として、受注側中小企業からの価格交渉の申し出に遅滞なく応じることや、価格転嫁に積極的に対応するように要請がなされています。あわせて、アンケートや下請Gメンによる中小企業2千社へのヒアリングなどで、実際の価格交渉・転嫁状況について国による価格交渉の申し出に遅滞なく応じることや、価格転嫁に積極的に対応するように要請がなされています。あわせて、アンケートや下請Gメンによる中小企業2千社へのヒアリングなどで、実際の価格交渉・転嫁状況について国による

2022年9月結果

企業名	価格交渉	価格転嫁
安藤ハザマ	イ	イ
大林組	イ	イ
鹿島建設	イ	イ
鴻池組	イ	ウ
五洋建設	ウ	ウ
清水建設	イ	ウ
大成建設	イ	イ
竹中工務店	イ	イ
戸田建設	イ	イ
日本道路	イ	ウ
前田道路	ウ	ウ
三井住友建設	ウ	ウ
関電工	ウ	ウ
高砂熱学工業	ア	イ
一条工務店	ウ	ウ
住友林業	ア	イ

ゼネコン・サブコン・住宅メーカー

ア…回答の平均が7点未満、4点以上
イ…回答の平均が7点未満、0点未満
ウ…回答の平均が4点未満、0点未満
エ…回答の平均が0点未満

建設業ではゼネコンなど29社が評価されています。価格転嫁で最も高評価の「ア」を受けた企業はおらず、特にコスト上昇分に対する価格転嫁割合は多くが

7割未満の「イ」であり、4割未満である「ウ」は事業者の37.9%を占めています(2022年9月結果より、別表参照)。

源、アーキテクチャは明治時代、文明開化とともに日本に入ってきた。その際、日本には多くの概念が不足していたが、ソサエティに「社会」、フリーダムに「自由」を当て、アーキテクチャには建築を当てた。当時、寺や殿、門などの個々の建築物の名称はあったがそれらを統合する概念はなかったという。

「ではアーキテクチャの語源はなんだろうか。諸説あるが、その一つはアルキメデスというギリシア語で、アルキとは「始まり」を意味し、テクトンとは「技術者」という意味で、つまり「始まりを作る技術者」という意味になるとのことだ。(小説「地図と拳」より)

「セロを1に、無から有を生み出す。始まりを作る」とはそんなニュアンスだろうか。すごいことだが、何もなかった土地に、荘厳な建築物が現れれば昔の人はそう感じたかもしれない。現代風に解釈すれば、人がくらす家を作るといことは、拠点をつくり、1日の始まりを作る、ともいえるのではないだろうか。

そんな語源を持つ産業にたずさわることが誇りに、それに見合う処遇を求めていきたい。仲間を増やして、適正賃金と適正単価、ゆとりある工期、週休2日制などを獲得しよう。8月の終わりとともに、秋の拡大月間がはじまる。

建築の語源、アーキテクチャは明治時代、文明開化とともに日本に入ってきた。その際、日本には多くの概念が不足していたが、ソサエティに「社会」、フリーダムに「自由」を当て、アーキテクチャには建築を当てた。当時、寺や殿、門などの個々の建築物の名称はあったがそれらを統合する概念はなかったという。